

その他

社会課題解決への挑戦

戦略とリスク管理

基本的な考え方

活動を支援するための制度

取り組み

— 環境保全

— 途上国支援

共生社会の実現

次世代人材の育成

海外での取り組み

災害支援

関連データ

● 海洋生物から創薬資源を発見するための共同研究

当社と中央大学は、2025年から海洋生物からの天然物探索に関する共同研究を開始しました。この共同研究は、海面下の構造物に付着した海洋生物から、新規創薬資源をはじめとする人類に役立つ未知の物質を発見し、その作用を明らかにすることを目的としています。アオカビから世界初の抗生物質であるペニシリンが発見されたように、自然界の生物がつくる物質（天然物）には、画期的な新薬やその開発のヒントとなる物質が存在しています。過去にも海洋生物から感染症の病原生物の増殖阻害に効果を示す新規天然物を発見した事例があります。今後は当社が主に海洋生物の採集環境の提供を行い、中央大学にて海洋生物の採集と未知の天然物の探索および有用性の評価を行うことで、私たちの健康で豊かな生活を支える基盤となる新しい物質の発見を目指します。

● 国際科学プロジェクト「アルゴ計画」

アルゴ計画は、気候変動に影響を及ぼす海洋内部の変動を監視するために、300km四方に1台、全世界で約3,000台の、水温、塩分、圧力を計測できるフロート（Argoフロート）を展開するというものです。当社は、（国研）海洋研究開発機構と「全球における海洋観測装置の設置協力について」の覚書を2010年11月19日に締結し、現在まで10年以上にわたり、継続的にArgoフロートを投入することでアルゴ計画を推進し、国際連合の定める持続可能な開発目標（SDGs）達成にも貢献しています。

Argoフロートによる観測成果は、世界中の科学者の調査・

研究に活用されており、これにより得られた知見は、国連に設置されている「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」のまとめる報告書などを通じて、国際的な地球温暖化対策の枠組みや各国の気候変動対策における政策決定に活用されています。近年では、エルニーニョに関する気候変動予測に加え、より身近な天気予報の精度向上などにも貢献しています。

当社は今後も、所有する豊富な船舶と航路を活用し、関係機関が所有する船舶ではアクセスが難しい遠洋へのArgoフロート投入を継続します。

● 三河湾地域の環境保全を支援

多くの船舶が入出港する三河湾地域の環境保全を支援するため、2025年2月に愛知県西尾市に150万円を寄付しました。主に、藻場※育成に関する調査・再生活動、アマモの育苗などに充てられています。また、例年実施されているアマモの苗付けのボランティアには、2023年より当社グループ社員も参加しています。

※藻場：さまざまな海藻が茂る場所のこと。水質の浄化や、産卵・成育の場などの役割を果たす重要な生息環境であり、「海のゆりかご」とも言われます

● リサイクル活動への参加

当社ではコンタクトレンズの空ケースの回収活動に参加しています。回収された空ケースはリサイクルされ、ボールペンなどのさまざまな製品に生まれ変わります。当社でも、これらの再生製品をノベルティとして活用しています。

途上国支援

当社グループのリソースを活用し、途上国の人々に教育、健康、労働などの機会を平等に提供できる社会の実現を支援します。

● （輸送支援）中古ランドセル

当社は、日本国内で役目を終えたランドセルを寄贈する（公財）ジョイセフの「思い出のランドセルギフト」に賛同し、アフガニスタンへの輸送協力を実施しています。2024年度は18,720個のランドセルの輸送支援を行いました。

アフガニスタンの子どもたちの多くは、毎日片道10キロ以上離れた教室まで険しい山道を通学していますが、教科書やノートをランドセルに入れて肩に背負うことで、山道を安全に歩くことができるようになりました。また、子どもたちを働き手としてのみ考えていた大人たちが、ランドセルを背負って学校に通う子どもたちの姿を目にすることで、教育の重要性を意識することができ、ランドセルは同国の人々にとって基礎教育のシンボルにもなっています。



「思い出のランドセルギフト」

その他

社会課題解決への挑戦

戦略とリスク管理

基本的な考え方

活動を支援するための制度

取り組み

環境保全

— 途上国支援

共生社会の実現

次世代人材の育成

海外での取り組み

災害支援

関連データ

●（輸送支援）絵本

当社はアジアの子どもたちへ教育支援活動を行っている（公社）シャンティ国際ボランティア会（SVA）の「絵本を届ける運動」に賛同し、グループ会社とともにカンボジア・ラオスなどへの輸送協力を2004年より実施しています。2024年度は19,224冊の絵本の輸送支援を行いました。

SVAは1999年より日本で出版されている絵本に現地語の翻訳文を貼って子どもたちに届けるボランティア活動を展開しています。現地では内戦や貧困のため、学校や教材が不足しており、子ども向けの本を書く作家もほとんどいません。SVAが配布する絵本は図書館や学校の授業などで使われ、識字教育や情操教育に役立てられています。



「絵本を届ける運動」

●（輸送支援）車いす

当社は、日本国内で使われなくなった車いすを利用した社会貢献活動を実施する（特非）さくら車いすプロジェクトおよび（特非）希望の車いすに対し、ウクライナ・パキスタン向けの車いすの輸送支援を実施しています。2024年度は車いすと中古修理パーツを含めて300台（個）の輸送支援を行いました。



さくら車いすプロジェクト

●（チャリティコラボ企画）チャリティRUN+WALK+α

当社は、ランニングやウォーキングなどの身近なスポーツを通じて、グループ社員の健康増進を図るとともに、社会課題への意識を浸透させるため、2017年から「チャリティRUN+WALK+α」を実施しています。社員の参加費や運動量に応じた寄付金は、紛争や災害で医療サービスを受けられない人々の健康促進に貢献するため、国境なき医師団に寄付しています。

この取り組みが評価され、当社は2018年より毎年「東京都スポーツ推進企業」に認定されています。



●（チャリティコラボ企画）冬物衣料寄贈

当社は（一財）フィリピン協会が実施する、日・フィリピン経済連携協定（EPA）に基づき来日するフィリピン人看護師・介護福祉士候補へ向けた冬物衣料寄贈活動へ賛同し、毎年、社内で回収した冬物衣料の寄贈を実施しています。

●（チャリティコラボ企画）ヘルシーメニューでTABLE FORTWO活動を支援

当社は、2009年4月より（特非）TABLE FORTWO International（TFT）の活動に賛同し、週に一度TFTヘルシーメニューを社員食堂で提供しています。

TFTヘルシーメニュー1食につき20円を当社が同団体に寄付することにより、開発途上の子どもの学校の給食として役立てられています。



●（フェアトレード支援）フェアトレード商品の販売

本店社員喫茶室で販売するコーヒーを2016年4月から全面的にフェアトレード商品に切り替えました。フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。コーヒー以外にも紅茶やチョコレートなど、グローバルな社会課題への意識向上と身近なところから始める社会課題解決への貢献の一環として、認証ラベルを取得したフェアトレード商品を取り入れています。2024年度は53,279杯のフェアトレード認証コーヒー紅茶飲料が販売されました。

また、2024年度に（特非）フェアトレード・ラベル・ジャパンの「フェアトレード・ワークプレイス登録制度」で、フェアトレード・ワークプレイスゴールドを取得しました。フェアトレード・ワークプレイス登録制度とは、社内で年間を通じて継続的に国際フェアトレード認証製品を提供または使用し、社内外へ

その他

社会課題解決への挑戦

戦略とリスク管理

基本的な考え方

活動を支援するための制度

取り組み

環境保全

— 途上国支援

— 共生社会の実現

— 次世代人材の育成

海外での取り組み

災害支援

関連データ

の国際フェアトレード認証の周知に努め、フェアトレードの普及拡大に取り組んでいる会社や団体を登録する制度です。当社は2023年度にコーヒーの数量基準をはるかに超える量を消費し、生産者へのインパクトを創出したとして、2024年度にゴールドを認証した4社のうちの1社に選ばれました。



国際フェアトレード認証ラベル



フェアトレード・ワークプレイス登録事業者認証ラベル

共生社会の実現

当社グループはすべての人々が生きやすい社会の実現を目指しています。

● あおぞらサッカー教室

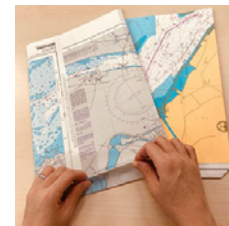
2022年から東京フットボールクラブ(株)(FC東京)との共催で、知的障がいや発達障がいを持つ子どもたちを対象とするあおぞらサッカー教室を当社の飛田給体育場で開催しています。



あおぞらサッカー教室の様子

● 海図封筒づくり

2019年4月より、不要となった海図を利用した封筒作成ボランティアを社内で実施しています。完成した封筒は日本点字図書館に寄贈し、図書館内の売店で販売されている視覚障がい者用具の梱包に活用されています。



海図を利用した封筒



封筒づくりの様子

● スワンベーカーリー販売会

スワンベーカーリーとは、「障がいのある人もない人も、ともに働き、ともに生きていく社会」の実現のために、(公財)ヤマト福祉財団とヤマト運輸(現ヤマトホールディングス(株))が中心となって設立した事業です。1998年にオープンした銀座店を皮

切りに、全国で店舗を展開しています。当社は2005年より、スワンベーカーリーの活動趣旨に賛同し、社内販売を通して応援しています。



● かすたねっと焼き菓子販売

かすたねっとは、(福)花水木の会が運営する一人ひとりが自分の能力に合わせて生き生きと働くことのできる「就労の場」です。当社は2011年より、素材にこだわったお菓子を喫茶室で販売し、その活動を応援しています。

次世代人材の育成

当社グループでは、未来を担う次世代の育成のために、当社リソースを活用しさまざまな取り組みを実施しています。

● 国際海事交流

当社とTransnational Diversified Groupがフィリピンで運営する商船大学NYK-TDG Maritime Academyと日本の商船高等専門学校、商船系大学との国際交流プログラムを実施しています。